



2012年3月26日
号外

民主党プレス民主編集部
〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
電話 03-3595-9988(代表)
メール press@dpj.or.jp
URL http://www.dpj.or.jp

NO.15 神尾てるあき

てるてるネットワーク

頻発する孤立死、地域の力で解決を！

1. 立川市で発生した母子の孤立死

3月8日、東京都立川市羽衣町の都営アパートの一室で、母子とみられる女性2人が死亡しているのが発見されました。テレビや新聞で大きく取りあげられていましたので、印象に残っている方も多いかと思えます。この事件は、90代の母親に認知症の症状があり、母親を介護していた60代の女性(子)が何らかの原因で死亡し、連鎖的に母親も亡くなったと考えられています。自治会長からアパートを管理する東京都住宅供給公社(JKK)に「母親と連絡が取れない」旨の通報があったものの、2人暮らしであることを理由に立ち入り確認等の対応はしなかったそうです。その後、JKKから立川市に親子の安否確認を依頼したのですが、市が動き出したのはそれから数日後のことでした。立川市では先月、今回の現場のすぐ近くで、母親(45歳)と障害を持つ子(4歳)が死後約2ヶ月の状態で見られる事件があったばかりです。改めて、地域コミュニティの希薄化が問題点として明らかになったのです。

2. 孤独死と孤立死

ところで私は、「孤独死」は以前からあったように感じますが、「孤立死」という言葉はあまり聞いたことがありません。一般的に「孤独死」というと、一人暮らしの人が誰にも看取られることなく死亡することをいいます。多くの場合は、普段通りに生活をしている中で病気等の突発的な事情によって死亡することです。これに対して、「孤立死」は、社会的孤立によって死後誰にも気づかれずに遺体そのままになってしまう場合を意味します。

3. 全国各地で起きている孤立死

立川市の事例だけではなく、全国各地で同様の「孤立死」が発生しています。例えば、①昨年12月、神奈川県横浜市の住宅で病死した親子の遺体が発見されました。70代の母親と障害を持つ40代の息子の2人が地域から孤立していった結果と考えられます。②今年の1月には、北海道札幌市のマンションで40代の女性2人が遺体で見られる事件もありました。この事件では、姉が病死した後、知的障害のあった妹が自力で生活ができずに凍死したとみられます。③また2月には、東京都台東区のアパートで90代の父親と60代の娘とみられる親子の遺体が死後数週間経過後に発見されました。④さらに3月には、北海道釧路市のアパートでも凍死した高齢夫婦の遺体が発見される事件もあったばかりです。

4. なぜ孤立死は起きるのか？

孤立死の原因は、高齢者一人暮らしの増加、地域コミュニティの希薄化、家族とのつながりの希薄化、貧困による生活困窮、地縁血縁社会の崩壊、少子高齢化、プライバシー保護の厳格化など、様々なものが考えられます。いくつかの事例をみても、障害を持っている方の家庭や高齢者だけで生活をしている家庭での事

件が多い点に気づきます。そして、アパートやマンションなどの地域コミュニティから孤立しやすい住宅環境で発生している点も特徴的です。一番の問題点は、人と人との関係が希薄になりつつある今の社会(いわゆる無縁社会)にあると感じます。私がかつて子どもの頃は「〇〇さん最近会わないね」「△△さんのお宅、お母さんの介護で大変みたいだよ」など、地域の中で情報交換がなされていました。ところが今では「プライバシーがあるから他人には干渉しない方がよい」「下手に首を突っ込むと面倒なことに巻き込まれる」といった風潮が増えたように思います。高齢者の単独世帯数は年々増加傾向にあり、今後の人口推計でも増加が予想されています。核家族化が進み、若い世代が親世代と同居する家庭も少なくなり、より孤立状態を生み出す構図となっています。

5. 江戸川区では、どうなのか？

江戸川区では、大きくニュースで取りあげられるような悲惨な事件は発生していませんが、区の総人口に対する高齢者割合が年々増加していることを考えると、同様の事件が発生する危険性は高い状況といえます。基礎的な対策としては、まめに親族と連絡を取り合ったり、町会・自治会の活動に積極的に参加したり、習い事やサークルといったコミュニティに参加することが勧められます。また、私がしているホームヘルパーの役割も大きく、定期的に高齢者・障害者の方のお宅を訪問することで異変に気が付いたケースも多いと聞きます。江戸川区では、高齢者向けの配食サービスが実施されていますが、これも定期的な安否確認の1つになっているといえます。水道・ガス・電気・ポットの使用頻度を送信するシステムも普及してきており、これも安否確認の手段となっています。しかし、先の事例にみたように、行政の対応や現在実施されている制度に頼っているだけでは孤立死の問題は解決しません。やはり、地域コミュニティの中で、住民の力によって問題を解決する力が何よりも求められているのです。

神尾てるあきと行く国会見学のご案内

神尾てるあき事務所では、随時、国会見学を実施しております。通常の見学では入ることのできないような場所へもお連れいたします。有名国会議員とバッタリ・・・なんてことも珍しくありません。見学ルートや見学時間も、ご希望に沿った形で対応いたします。お申込みは、ホームページ・メール・電話・FAX・口頭、どんな方法でも構いません。

神尾昭央(かみおてるあき) プロフィール

1982年(昭和57年)静岡県西伊豆の土肥町(現在の伊豆市)で生まれる。
日本大学三島高等学校卒業。日本大学法学部法律学科(法職課程)卒業。
駿河台大学大学院法務研究科(法科大学院)を修了し、法務博士取得。
衆議院議員初鹿明博の秘書として、政治の道を学ぶ。
2011年江戸川区議会議員選挙において2021票を獲得するも落選。
ホームヘルパー2級資格を取得し、江戸川区内の福祉施設にて勤務。
篠崎駅・瑞江駅・一之江駅にて朝の駅頭活動を継続中。



【神尾てるあき事務所】 〒132-0003 東京都江戸川区春江町3-32-3
TEL/FAX 03-5664-6708 メール info@kamioteruaki.com
ホームページ <http://kamioteruaki.com/> てるてるネットワークのバックナンバー掲載中です！

